

第3回 次世代自動車事故等に対する活動技術の 高度化に関する検討会 議事概要

1. 日 時：2020年12月25日（金）13：30～15：30
2. 場 所：WEBによる開催
3. 出席者（敬称略）
 - ・委員：木下直樹、小林恭一、関根和弘、高橋直人、高橋昌志、山崎孝章、
若原誠一、大塚和利（代理：小野好友）、田上満、土屋英輔、森田拓志、
野呂瀬亮一、吉田克己、渡邊薫
 - ・オブザーバー：田村裕之、喜多光晴（代理：平田耕拓）、小塩雅史（代理：堤弘幸）
4. 議事内容
 - (1) 委員紹介
 - (2) 議事（□：座長、○：検討員、●：事務局、■：オブザーバー）
 - ①報告書（案）の構成
 - ：構成として目次に沿って各章および参考資料で扱う内容について説明
 - ：質疑・意見なし
 - ②報告書（案）第1編
 - ：前回の検討会からの変更事項、検討経過、提言の記載内容について説明
 - ：提言の記載内容については、持ち帰り検討させていただきたい。
 - ③報告書（案）第2編（序章・第1章）
 - ：前回の検討会からの変更事項、活動要領のポイント、用語・略語集、また車種別の
特徴の内容について説明
 - ：質疑・意見なし
 - ④報告書（案）第2編（第2章）
 - ：消防活動の基本原則として、交通事故等で出動した場合の注意事項、多数の傷病者
が発生した救助事案、関係機関との連携について記載内容を説明
 - ：CSCATTTとなっている表はミムス（MIMMS）からの抜粋引用であるため、それ
を記載すべき。関係機関との連携については、図を入れたほうが分かりやすい。そ
の関係機関との連携の図については、MCLSと書かれている図を少し編集し、現
場と医療者等を書いてイメージを示すのが良い。
 - ：P.45の車両の安定化の後、4つ目に「駆動輪に車輪止めをする」
について、「駆動輪」という書き方は必要か。
 - ：JAFの資料では、万が一、車のギアが入って突然動き出すということもあるので、
敢えて駆動輪としている。

●：駆動輪であるべき理由を整理したうえで、書きぶりは再整理する。

⑤報告書（案）第2編（第3章）

●：車種毎の活動を行う上での危険性、安全対策、必要な装備、救助活動と火災活動に分けたフローチャートおよび、高電圧の遮断方法、基礎知識の記載内容について説明

○：質疑・意見なし

⑥報告書（案）第2編（第4章）

●：車両からの救出、救護要領の記載内容について説明

○：P.79の活動の手順という図、写真等、JPTEC協議会が出しているガイドブックから抜粋したものは「JPTECガイドブック引用」と記載すべき。エアバッグが爆発する可能性があるということについて一言記載すべき。自動車事故時、運転席のみに乗車していた場合は助手席側からなるべく進入しない、助手席のシートの上には体重は掛けないという教育をすると良い。

□：エアバッグの破裂の話は重要そうなので、少し丁寧に書いてはどうか。

●：記載箇所を検討し、必要であれば複数箇所で触れるようなことも検討する。

○：参考までに昨年出動した現場でドクターを要請した際に、寒い中でドクターが使っていた輸液が体を温めるものだった。冬場にはこれを活用できるかもしれない。

⑦報告書（案）参考資料

●：車の基本構造、電気の基礎知識、各メーカーのレスキューマニュアル、先駆的な消防本部の取り組み紹介について記載内容を説明

○：JAFのマニュアルでは救助の車が行った場合、停車する際はすべて、縁石の方にタイヤを曲げて停車すると決まっているのか。

○：後方から追突された時に自分の車がまっすぐ前に飛んでいかないようにするために、左側に停車した時は左に切る、道路の右側の時は右に切るよう、マニュアルに示して教育を行っている。

○：高速警察隊でもマニュアルで同じようになっていると聞き、以前消防本部でそのようにマニュアル化した。ただ、全国の消防で同様にされているようではなかったので、他の消防の話の聞きかたかった。

○：我々の消防本部では、NEXCO中日本と調整して行っており、高速道路に関わらず、停める時は追突されてもまっすぐ行かないように、タイヤをどちらかに切るよう対応している。

□：事務局の方で実情を調べて、そういう状況があるのであれば、そこまで触れて書いてはどうか。

●：非常に有効だと思う。書きぶりは検討する。

■：手袋について絶縁の手袋も600Vくらいまでの低圧対応のものがあるが、バッテリーの電圧の記述の箇所で650Vくらいのもがあると書かれていた。高圧に対応し

たものを使っているのか。また、ゴムの手袋そのままに救助活動行くと、すぐに破れるのではないか。その対応について考えを知りたい。

○：絶縁グローブについて、我々は基本的に 750V 以上のものを導入している。あとは半年に一回メーカーに全て絶縁グローブを送り、定期自主検査を行っている。現場ではそのままだと破れる可能性があるため、中に一枚作業用のグローブを装着し、絶縁グローブを上から使うということもやっている。逆に絶縁グローブの上に通常の革手袋を被せて使うこともある。

■：太陽光発電設備の火災の時も同じように 500V、600V という環境で、絶縁の手袋の上にケブラーの手袋をするという対応をしてほしいとしている。また、P.93 の先ほど感電の電流値の表（電流値が 1 mA、5 mA となっている表）に関して、こちらは直流電流についての記述ということで良いか。

●：恐らくそうだと思うのだが、後で確認しておく。

□：工夫して中に入れ込むと良い情報もあると思われるので、事務局の方で検討いただきたい。

(3) その他

●：今後のスケジュールと第 4 回の検討会開催は 2 月 2 日（火）午前中に WEB にて実施予定である旨を連絡。資料は冊子および DVD をプラスして送付、また、DVD に入れる予定の動画内容についても説明

以上